



●司会 **八尾 厚史**
東京大学保健・健康推進本部講師

●出席者 **大郷 剛**
国立循環器病研究センター
肺高血圧症先端医学研究部特任部長/
心臓血管内科部門肺循環科医長

松原 広己
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター
臨床研究部長

土井庄三郎
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
小児・周産期地域医療学教授

(五十音順)



多剤併用療法が拓く 肺高血圧症診療の未来 —IPAHとシャント性PAHの 治療について—

特発性肺動脈性肺高血圧症(IPAH)に対する多剤併用療法の有用性が確立され、経口多剤と静注薬をどう併用し、使い分けていくかが近年注目されている。本座談会では成人IPAH治療の知見をもとに、小児領域におけるIPAHの治療指針について討論いただくとともに、成人の先天性シャント性心疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症(sPAH)における多剤併用療法の可能性、小児sPAHに対するPAH治療の課題と将来展望などについて討論いただいた。